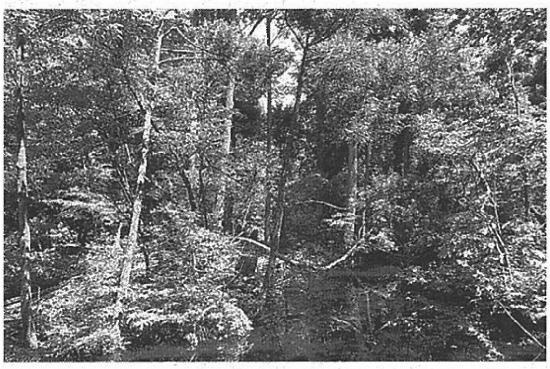


㊧かつて群生していたスギは現在3㌶ほどに ㊦湧水により林内には暖地性の植物が生育する

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第7回 富山県入善町

一般財団法人 日本不動産研究所

地下と海底がもたらす恵みの水

美しい風景を守る好循環

富山県の北東部で県境周辺に入善（にゅうぜん）町がある。北アルプスを源とする黒部川が形成した扇状地からは地下水が湧き出ており、県内では「水」の美味しい町として知られている。名水と肥沃な土壌から良質な米が育まれる米どころであり、また形状がラグビーボールに似た重さ10～20キロほどの巨大スイカ（入善ジャンボ西瓜）の産地でもある。〝水〟が豊富な入善町の〝水〟に関わる風景や施設を紹介したい。

癒やしもたらす湧水

黒部川扇状地の末端で海岸に近い地域に群生する自然林である。かつては100㌶を超える平坦な湧水地にスギなどが群生していたが、圃場整備事業などにより伐採が行われ現在は3㌶ほどしか残っていない。林内は湧水により冬も比較的暖かいことから暖地性の植物が生育している。また、黒部川の氾濫で山から流れてきた種子などが繁殖して山地性の植物も見られる。暖地と山地の植物が混在し生育しているところは全国的にも珍しいようである。林内に入ると木々の間を縫うようにして遊歩道が整備されている。林内は閑静でゆったりとした時が流れており、木々の群生は幻想感を醸し出している。森林浴をたっぷりと楽しむことができ、癒やし効果抜群のエリアである。

水田が延々と広がる入善平野の中に下山（にざやま）芸術の森発電所美術館がある。発電所と美術館という奇妙な名称のこの施設は、標高差約20㍍の河岸段丘を利用して大正時代に建てられた水力発電所（旧黒部川第二発電所）である。これを入善町が北陸電力㈱から譲り受けて改装し、95年に現代アートを紹介する美術館として開館した。

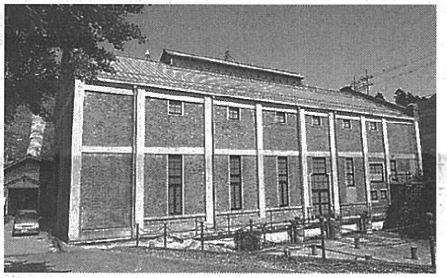
赤レンガの外壁と緑の切妻屋根の建物が周辺の水田と調和しており、これが以前は発電所であったとは信じられない。ただ、背後の小高い丘から法面に沿って太い導水管が美術館に延びている。また美術館の内部には発電機が残され、床から10㍍はあろう天井はむき出しの鉄骨で囲われている。赤と緑がマッチした柔らかな正面とは異なり、背後の導水管やゴツゴツとした感じの内部から重厚な発電所であったことがうかがえる。小高い丘の展望台からは黒部川扇状地に広がる水田とその中に点在する農家住宅が一望でき、田舎の素朴な優しさに触れることができる。

海洋深層水の宝庫

富山湾に面する入善町は海洋深層水の宝庫でもある。水深400㍍の海底よりくみ上げられたミネラル豊富な海洋深層水は、カキの蓄養などに利用され、カキは全国に出荷されている。町内ではそのカキを味わうことができる飲食店が増えており、入善町の新たな特産品となっている。

地下と海底からもたらされる豊かな「水」が素朴で美しい風景を育み、その変わらぬ風景が豊かな「水」を守っている。この一連の流れを大事にしたい。

（富山支所／不動産鑑定士・広瀬信之）



水力発電所を再生した現代アートの森発電所美術館